

神奈川県・横須賀市立北下浦小学校

【学年】4年生 【参加児童数】32名 【実施日】6月3日(火)

自分のタイプに合わせた 書き出し方を考える

読書推せん文を書くコツについて、久米先生は「書いた文章を『読んでみたい！』と思わせる書き出しが大事」と語りかけました。ただ、その書き出しこそが児童のみなさんのなやみどころ。久米先生がアドバイスしたのは、自分のタイプに合わせた書き出し方を考えることです。



読書推せん文の切り口について、
分かりやすいような様々な“コツ”を伝授！

文章にまとめきれないほど、書きたいことがたくさんあるというタイプの人には、一つのシーンやページをしぼって書き出す方法を挙げました。

例として解説したのは、さまざまなジャンルの雑学が満載の本を取り上げる場合です。北下浦小学校が校舎から東京湾へのぞむ海辺の学校であることに

ちなみ、「もし海が大好きな友だちに向けた読書推せん文を書くなら、『このページに海の生き物の漢字がのっているよ』と読む人におすすめしたいページをしぼってみるといいかも！」

さらに

「イルカは『海豚』、シャチは『鮨』と例を紹介しながら、久米先生も一緒に考えます



「書き方に迷った時は……」本を見ながら、久米先生も一緒に考えます

「今度、いっしょに海の生き物の漢字クイズをつくらうよ」と呼びかける言葉があれば、人を引きつけるような読書推せん文になるはず」と話しました。

ほかにも、そもそも作文が苦手というタイプの人には、連想ゲームを提案。「作文を『つまらない！』と感じている人は、どんなときが楽しいかを考えてみて。そうすると、自分の『好き』が見えてきて伝えたいことも浮かびあがってくるかもしれない」

伝えたい人へ
想い浮かべて書いてみる

当日は雨でしたが、授業の中

では久米先生が「天気はキーワードに文章を書く目的も説明。『人生は天気のように雨の日や曇りの日もある。そんなとき、文章を書くことで心のもやもやが整理され、気持ちをごきげんなお天気にすることもできる』。話を聞いた児童らは「自分だけでなく、読書推せん文を読んでくれる人の気持ちもきげんにできたら」などと話していました。久米先生の授業後は、実際に読書推せん文に挑戦。動物が主人公の絵本で「かわいい！」と思った自分の気持ちを大好きな祖母に伝えたいと鉛筆をにぎる児童や、イラストがうまくなりたい人に向けて「このページを読んで練習してみて」と自分の経験を生かして文章をつづる児童の姿などがありました。



外は雨が降っていましたが、
晴れやかな笑顔で締めくくりました